

作業療法. 2011; 30(2): 213-218.

## 作業療法を用いた介入により社会適応行動が改善した軽度精神発達遅滞を伴う成人例

遠山さつき、宮本清香、臼杵扶佐子

社会適応行動障害を伴う軽度精神発達遅滞の成人例に対する行動障害の改善を目的とした確立された作業療法アプローチはない。当センターで行っている外来リハビリテーションにて、コミュニケーションスキルの低下による社会適応行動に問題が認められた軽度の精神発達遅滞を伴う成人水俣病認定患者を経験した。その症例に対し、行動変容法の理論に基づく作業療法を実践したことで、症例のコミュニケーションスキルが向上し、社会適応行動の改善がもたらされ、社会生活が拡大した。この経験より、軽度の精神発達遅滞の成人期においても、個人の特徴を包括的に把握し適切な介入を行うことにより、機能面での改善は困難であっても社会適応行動の改善と社会生活能力の向上が可能であることが示唆された。